

令和5年度
商店街組合調査事業

商店街活性化ビジョン作成に係る 調査研究事業報告書

令和6年3月

鳥取県商店街振興組合連合会

はじめに

県内商店街を取り巻く情勢は、少子高齢化による人口減少や空き店舗の問題、郊外型大規模店の出店といった従前の外部環境変化に加えて、新型コロナウイルスやウクライナ・中東情勢による物価の高騰により来街者が遠のき、対面販売から通信販売へと消費行動が変化したことで個店の売上が減少するなど厳しい状況が続いています。さらに、商店街を組織する店主の高齢化や後継者不足は深刻化しており、商店街活動への参加意欲の低下、組織運営の脆弱化など商店街内部の環境変化による問題にも直面しています。

このような外部環境、内部環境の劇的な変化の中で、商店街の新たな魅力を発掘し、人々が今後も訪れたい場所であり続けるためには、商店街が今後取り組むべき方向性について商業者自らが主体的に話し合い、商店街活性化ビジョンとして組合員、関係機関、地域住民らが共有化を図ることで、商店街のエリア全体がビジョンに基づく取り組みを継続していくことが重要となっています。

こうしたことから、今年度は商店街活性化の取り組みに向けて組合間での連携・気運を醸成するため、倉吉銀座商店街振興組合を対象に、ワークショップを通じた活性化プランを検討するとともに、行政・組合員連携の参考となる先進事例を調査するなど、商店街活性化ビジョン作成に係る調査研究を行いました。

この調査研究結果が県下商店街振興組合のビジョン作成に係る新たな事業展開や関係機関の支援の参考となり、商店街の活性化の一助となれば幸いです。

おわりに、本事業の実施にあたり専門家としてご指導いただいた株式会社コー・プラン 吉川 健一郎 様、県外先進事例調査にご協力をいただきました大分市府内五番街商店街振興組合、大分市役所商工労働観光部商工労政課、山口情報芸術センター、株式会社街づくり山口の皆様に対し、深く感謝申し上げます。

令和6年3月吉日

鳥取県商店街振興組合連合会
理事長 真 嶋 茂